

安土の城あつちのしろ（大野恵造おおのけいぞう）

おお おお おお 壮麗そうれいなるかな

安土あつちの城しろ 五層ごそうの天守閣てんしゅかく より

俯瞰ふかんすれば袞々ほうほう 満々まんまんたる

琵琶びわの湖水こすいあり 閣内かくないの広間ひろまは

永徳えいとく 描くえが 襖ふすまの丹青たんせいもて 仕切りしきり

柱間ちゅうかん 壁上へきじょう 南蛮渡来なんばんとらいの

珍什ちんじゅう 奇器ききを 処ところ 狭きませままでに 置くお

城下じょうかには また 甲比丹かびたんの

往来おうらいする もありて

異国いこくの 情趣じょうしゆ 四辺しへんに 漂うただよ

解説 織田信長が琵琶湖沿岸に構築した安土の城を詠った詩。

語釈 ※安土城あつちのしろは織田信長によって現在の安土山に建造され、大型の天守を初めて持つなど威容を誇った城。※壮麗そうれいはおごそかでうるわしいこと。さかんで美しいこと。※俯瞰ふかんは高い所から物事を見下ろすこと。※袞々ほうほうは広々としてほらかなさま。※満々まんまんは満ちあふれているさま。満ち満ちているさま。

※閣内かくないは楼閣や宮殿などの内部。※永徳えいとくは狩野永徳のこと。安土桃山時代に活躍した日本画家。※丹青たんせいは赤の絵具の材料になる石と青の絵具の材料になる土。また、赤い色と青い色。※南蛮渡来なんばんとらいは異国風の珍しい品物や文化。※珍什ちんじゅうはめずらしい家具調度品。珍器。※甲比丹かびたんは江戸時代に日本にやってきたヨーロッパ人。異国人。

通釈 ああ、何と壮麗なのだろう安土の城は。五層の天守閣から見下ろすと、広々と満ちあふれている琵琶湖が見える。安土の城の内部の広間は、狩野永徳が描いた襖で仕切られており、柱の間、壁の上には異国から運ばれた珍しい珍器が所狭しと置かれている。また、城の外では異国人が往来し、まさに、異国の趣が四方に漂っている。